週刊「考歴民（これみ）」Ｎｏ26

2021.9.20.　交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

=地名とは特定土地に付けられた名称である
山も川も橋も駅もや=
ホンマかいなぁ～

地名:倉治②

地名には、どのようないわれ、意味があるのだろうか。

交野山（こうのさん）

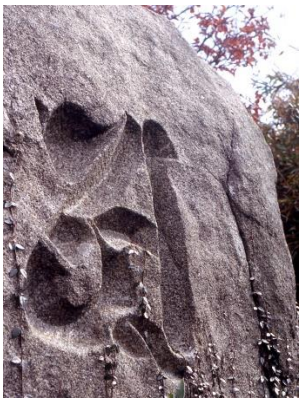
いきなり出てきましたね、隣のおっさん
【隣】かたのさんと呼ぶのと違うのか
【考】こうのさんでええんや!町名をこうの村
それ以前には甲の尾山とも呼んでいた
【隣】山をさんと呼ぶのか、ざんと呼ぶのか?
【考】そんなこと聞く人、お前だけではない
さんもざんも山に変わりない（笑）

交野は背後に山地があり、その前面に平地が開けた野原をさしている。
生駒山系の北の端に当たる竜王山・旗振山・交野山・津田山が東西から南西に連なる。
その西側一帯に山のふもとから淀川、天野川の流域にかけて次第に低くなる台地を形成している。
まさに交野は片方に開けた野である。
上記、四山の中で、交野山（▲３４４m）は頂上部が岩山でそびえ立つ景観から、交野地方の山として、その中心的役割を果たしてきた。
【隣】ちょっと待って
【考】なんや、新聞もって（2021.9.8 夕）
【隣】こないだ「巨岩群案内」で標高 341 ㍍になっていたが、どないや、市史（自然編）もその他、発刊書物には 344 ㍍なっているが。
【考】数年前から気になっていた。
わかった!調べておくから、でも山も、のびたり、縮んだりするからなぁ

交野山の頂上の岩に梵字（ぼんじ）を彫ったのが三つある。
観音岩が中央に聖観音、南に三宝荒神、北に大日如来である。
大岩に梵字を彫っているということは、修験者の修行の場であったことを意味している。

聖観音

三宝荒神



大日如来

役行者（えんのぎょうじゃ）（修行者）が山を駆け巡り、岩山を駆け上り、心身の鍛錬をして悟りを開いていったものである。交野に住む人々が村のシンボルとして東の山、交野山から昇る太陽を拝んでは田畑の労働にいそしんできたであろう。

松塚（まつづか）

関西電力枚方変電所西南に「松塚上池」「松塚下池」という二つの大きな池がある。関西電力の社宅の辺り（現在はさら地）松塚という。
男谷川（おたにがわ）扇状地（関西電力枚方変電所敷地内）は高台になっている。そこは昔から松林になっていたであろう。それを開墾して畑作地とし、変電所が造られる前はミカン畑であった。

交野山・関電・上池（堤防の上）・下池

松塚という名前があるようにこの場所から横穴式古墳が四基発見されている。古代の人々の生活の場であったこともうかがい知られる。

鏡池（かがみいけ）

源氏の滝を観賞する景勝の地、滝から流れてくる水をせき止めて造った池である。上下二つの池からなり、下の大きな池を鏡池と呼んでいる。
月夜など池面に写る月を見れば、それはすばらしい月見となるであろう。

倉治の人々が領主久貝様のために、茶室を造り、池を掘り、石橋を渡し、谷間の自然美を背景にしたすばらしい庭を造りあげたということである。

機物神社南の鳥居

倉治小学校の南へ出た所にあった。
古い地図を見ると神社から南向いて参道が伸びている。今のように西からの参道ではなかったことが伺える。
本殿、拝殿は南向きである。
正面は南で神社の出入り口も南にあったことを示している。

南参道(現・倉治小)

籠池（かごいけ）（現・関西スーパー）

倉治の北東、警察学校（移転）への入り口にあった四角い池があったが、昭和５８年秋に池は埋め立てられ住宅地となり由緒ある池であったということが失われてしまった。
「籠池」の「籠」は水もちの悪い池である。

西側の土手の水漏れを防ぐため、池の底から土手いっぱいに粘土を幾重にもたたいて張り詰める。そうしないとせっかくの蓄えた水が漏ってしまうのである。いざ、夏の干害の時に役立たないのである。

交野では「石つき唄」としてうたわれていた。

婚礼などの場でも大いにうたわれたものである。

歌碑

わしの若いときゃ　津田までかよた

倉治かご池で　夜が明けた

荒神塚（こうじんつか）

倉治の北部、がらと川とバス道が交差する地点を「荒神塚」と言っている。

「荒神」というのは「かまどの神」あるいは「火の神」である。

関西では三宝荒神と呼ばれている。

農家では、かまど（へっついさん）の隣に祭ってある。いわゆる「かまどの神」である。

火を大切にするとともに火難から家、家族を守ろうとするものである。

京都の愛宕山（あたごさん）が荒神さんで知られている。

子供の十三参りとともに火難防止のために火除けの御札を求めてくる。

倉治の村の北側に荒神塚が祭られたということは、京都の愛宕信仰の表れではないだろうか。愛宕山へお参りすればよいのだが、毎日この塚に祈ることによって火災を防止し、家内安全を祈ったのである。村人が北の愛宕山の方を向いて祈ることによって、愛宕山に参っているのと同じ御利益（ごりやく）があったのである。

かうしん

愛宕山

庚申橋

【隣】ちょとお聞きします

荒神塚（こうじんづか）とか庚申橋（こうしんばし）とかかうしん、とかいってるが何が正しいのですか

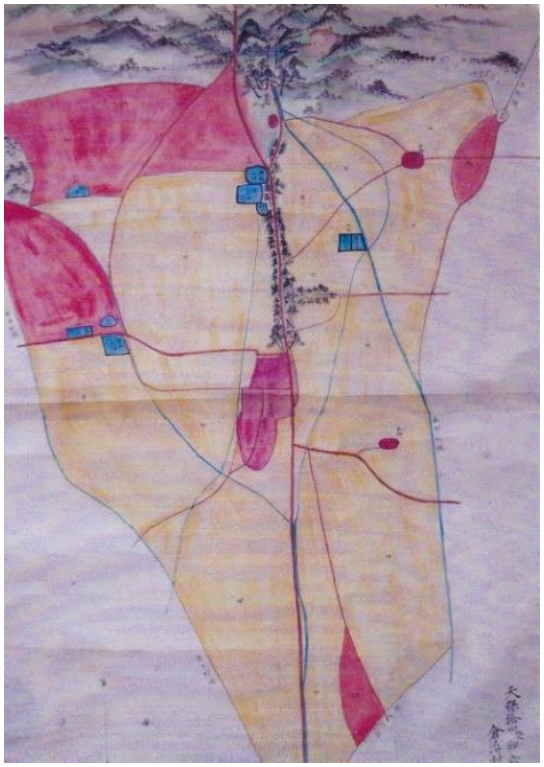
【考】荒神さんは火伏の神さんで愛宕山

庚申とは人の体には不老長寿を阻む三尸虫（さんちゅう）という虫がいて、暦で60日目にあたる庚申の日に天の帝釈天（たいしゃくてん）様に人間の悪事を告発して寿命を縮めようとするとされていました。

なので「庚申の夜は眠らずに過ごそう」という
守庚申（しゅこうしん）という風習がありました。
かうしんとは、こうじんから転換したものではないか。
【隣】それで結論は、ここを何と呼んだら
【考】私も実は庚申と思っていた、橋のプレート名も庚申橋となっている。しかし村のはずれで行う、伏拝さんからして荒神さん（火伏の神）やなあ。また、愛宕山と銘記した石仏が倉治にあった。よって荒神さんやなぁ、こんなにもんでよか

河　原（かわら）

江戸時代中ごろまで、源氏滝からの川が機物神社の北側を堂前の方に流れていたという。ちょうど源氏滝から機物神社の北を通り、倉治の村中を東西に抜ける道路が、この当時の川であり、河原であったということになる。



天保 10 年倉治村絵図

この川は時々大雨が降れば増水し、はん濫の危険性が高い。しかも村を直撃するので、倉治は川の付け替えをした。それが今の免除川なのである。免除川は付け替えにより年貢を免じてやるということで、代替地の問題、工事の費用、労働と、村人には相当の無理があったため、税を免じてもらったところから「免除川」と付けられたものと思われる。

本郷（ほんごう）

いわゆる倉治の集落の中心部を指す。
光明院を中心として東西２００m、南北２００m ぐらいの方形の落密集地が見られる。「本郷」という地名は光明院周辺地を指して呼んでいる。
交野山西のふもとに住み着いた渡来人が機織りを業として栄えたのであるが、山崩れか大洪水のため集落を下方に移転した。
その中心地が今の光明院辺りであった。このような地名が残ることで、その村の発展過程が分かるので、是非とも残しておきたい地名である。

参考
倉治の旧村は本郷・中村・有池・鶴が峯にあった。
次の機会に大仏町など説明することに。

次回は 9/27